

陶芸教室 第2弾

～ 手ひねり成形コース開催 ～

前回実施した絵付けコースとともに陶芸教室第2弾として、手ひねり成形コースを開催しました。

この手ひねり成形は、所員が事前に切り分けた粘土（約1500グラム程度）を使って手回しろくろ（今回は、各自手を使って回すものを使用）で作品を作り上げます。

まず、体調チェック、検温、消毒をして受付後研修棟2階で所員から、注意事項と成形の説明を受け、いよいよ開始です。研修棟2階の部屋は、主として陶芸関係で使用する部屋に割り当てており、前回の絵付け教室でも使用した12畳ほどのこじんまりとした部屋で、独立しているため作品作りに集中できると参加者の方がおっしゃっていました。

陶芸の流れは、成形→仕上げ→乾燥→素焼き→釉薬かけ→本焼き→完成となり、そのうち、成形と仕上げの工程を行います。

第1日目は、成形する日です。

粘土は焼くと収縮するので想像している大きさより約2cm程大きく作るとよいそうで、参加者の方々は思い思いの器の大きさをイメージしてから器作りに入っておられました。まず、手回しろくろの中心に粘土を置き、粘土を均一で平らにするために手のひらでたたきます。指を使うとガタガタになりくぼみができるので、手のひらで均一にして平らにします。

そして、手回しろくろを回し、まわっている向きに針先を向け軽く線だけを入れた後、せんにそって針で切り取っていきます。力の加減が難しそうですが、皆さん指を上手に使い丁寧に作業をされていました。土台ができたならそこに水を軽く塗りつけ、紐状にした粘土を置き、土台の粘土と紐状粘土を指で押しつけ形を作ります。つけた後のつなぎ目の線が内側や外側にあるので指でなでて丁寧に消す作業へと続きます。手回しろくろで粘土を積み上げるときに粘土に空気が入ったり、しっかりくっついていないと破裂して壊れたり、持ったときにとれてしまったりすると聞いて慎重にまた、力を込めて仕上げていきました。

今回参加された方は、とても手慣れた様子でテキパキと作業をこなされまた、一つ一つの工程も丁寧にそして美しくこなされていたのがとても印象的でした。

目指す大きさになるまで、繰り返し紐状粘土を積み上げていきます。なかなかこの作業が大変で、すこし指の形や方向が違っていると形がゆがんでしまうので、時間をかけ様子を見ながらじっくりと作業をされていました。最後に形を整えて完成。次回の仕上げ（削り）へと展開していきます。

今回参加された方々は、カルチャー教室や体験教室等で実務経験を積んだ方が多く見受けられ、とても手慣れた様子で粘土を練り上げ形を作っておられた様子を感じて眺めていました。

つづいて第2日目、この日で仕上げ（削り）をします。

前回作った作品の裏を削って形を整えるのが今日の大きな目標です。

まず、手回しろくろの中央に裏向けた作品を置きます。作品がろくろ台の中央に収まら

ないといびつになると聞き、慎重にまたそおっと優しく設置。息が詰まる瞬間でもありました。中央に無事置き終わると一仕事終えた不思議な満足感が生まれてきたようでした。安堵の表情を浮かべておられるのを伺い知ることができました。

その後、軸になる線を針で描きろくろ台を回します。ここで利き手を反対の手で支え固定することがポイントと聞き、かえって堅くなってしまいましたが、何回やこなしていくうちにスムーズに動き出しました。次に線を描いたところ以外をワイヤーベラで削ります。あまり大胆に削ると穴が開くので、ここは慎重に慎重に少しずつ削ります。緊張の連続で肩がこる作業でした。

仕上げに底の厚みとでこぼこしている部分をなくすために水を絞ったスポンジでなめらかにします。

だんだん表面がつるつるになり、滑らかになりました。完成です。

この後、800度で素焼きをした後に、希望した色の釉薬をつけて1230度で本焼きをします。

完成が楽しみです。なお、完成した作品は、自然の家から作られた方に連絡をして後日引き取りに来ていただくことになっています。

なお、ご参加いただいた人数は、11/20-12/18開催は、午前の部6名、午後の部3名。1/22-2/19開催は、午前の部3名、午後の部5名。

盛況のうちに終わりました。ご参加いただいた皆様は、きっと陶器ができあがるのを心待ちにされていることでしょう。お疲れ様でした。

また、次年度は、電動ろくろを使つての陶芸教室も模索して計画を練っております。その節には、荒神山自然の家で電動ろくろで陶芸作品作りにチャレンジしてみませんか。

所員一同、皆様のおいでを心待ちにしております。

活動の様子

11/20-12/18開催分





1 / 2 2 - 2 / 1 9 開催分





